

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

事業所名 児童デイサービスあさひみらい

保護者数(児童数) 29 回収数 28 割合 97%

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	① 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	23	5			・年齢も大きくなる長時間みらいのスペースだと不十分になるのではないか。 ・たまにどこか体育館、公民館など借りての活動もよいのでは。	長期休みや休日などは、感染症などの社会状況をみながら障害者交流センターの体育館等を活用できればと思っています。
	② 職員の配置数や専門性は適切であるか	26	1		1		
	③ 障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化が適切になされているか	21	4		3		
適切な支援の提供	④ 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画が作成されているか	27	1				
	⑤ 活動プログラムが固定化されないよう工夫されているか	26	2				
	⑥ 放課後児童クラブや児童館等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	4	7	7	10		
保護者への説明等	⑦ 利用者負担等の説明や支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	28					
	⑧ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができてきているか	28					
	⑨ 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	28				・子の悩みにとてもよく相談にのっていただけ心強いです。子供を大切に下さっているのがとてもよくわかります。	
	⑩ 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	10	9	2	7	・今は難しいと思う。コロナ前はありました。 ・以前は父母の会の活動や交流があったとお聞きしたことがあります。コロナのせいで交流ができず残念です →今はコロナの影響で控えていたりしますが通常では有だと思ってます。	コロナウイルス等の脅威が収まり、お集まりいただけるようになりましたら、以前のように保護者会や勉強会を開かせていただきます。
	⑪ 子どもや保護者からの相談や申し入れ、苦情について、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	27	1				
	⑫ 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	27			1		
	⑬ 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	24	3		1		
	⑭ 個人情報の取り扱いに十分注意されているか	26	1		1		
非常時等の対応	⑮ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	28					
	⑯ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	22	2		4		
満足度	⑰ 子どもは通所を楽しみにしているか	27	1				
	⑱ 事業所の支援に満足しているか	28				・イレギュラー対応も受け入れてくれ とても助かっています。	

## 事業所における自己評価結果(公表)

公表： 令和 4年 3月15日

事業所名 児童デイサービスあさひ丸みらい

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7				
	②	職員の配置数は適切である	6	1			
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7			パーテーションやビニールテープなどを使い視覚から情報を得られるようにしている。	
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している。	7				
	⑤	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7				
	⑥	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の開放やホームページ等で公開している	7				
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			7		
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7				
	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7				
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1			

適切な支援の提供	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	7			ミーティングで話し合い決めている。	
	⑫	活動プログラムが固定化されないよう工夫されている	7			同じ遊びでもひとつアレンジを加えるなど工夫している。	
	⑬	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて個別支援計画を作成している	7				
	⑭	支援開始前には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7				
	⑮	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7				
	⑯	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7				
	⑰	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7				
関係機関や保護者との連携	⑱	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしいものが参画している	3	3	1	開催される時には、児童発達支援管理責任者が参加している。	サービス担当者会議があまり開かれておりません。
	⑲	母子保健やこども・子育て支援等の関係者や学校、関係機関と連携した支援を行っている	3	3	1	学校、相談支援事業所等と連携している。	
	⑳	就学前に利用していた保育所、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか		6	1		
	㉑	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供しているか	5	1	1	保護者のご希望があれば提供している。	
	㉒	児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7				

連携	⑳	放課後児童クラブや児童館との交流、障害のない子どもと活動する機会があるか			7		
	㉑	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	7				
	㉒	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7				
	㉓	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	2	3	年に2回の保護者会と同時に 障害理解などの勉強会を行うようにした。	昨年度～今年度はコロナウイルス流行のため行えていません。コロナウイルス終息後に再開したいと思っております。
保護者への説明責任等	㉔	運営規定、利用者負担等の説明や、支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ている	7				
	㉕	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7				
	㉖	父母の会の活動をしたり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	1	5		昨年度～今年度はコロナウイルス流行のため行えていません。コロナウイルス終息後に再開したいと思っております
	㉗	子どもや保護者からの相談や申し入れ、苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7				
	㉘	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の除法を子どもや保護者に発信している	7			ホームページやインスタグラム、今年度からは定期的に会報「みらいだより」を発行している。	
	㉙	個人情報の取り扱いに十分注意している	7				
	㉚	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	7				
	㉛	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	1	5		

非常時等の対応	③⑤	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練が実施している	7				
	③⑥	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行っている	7				
	③⑦	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7				
	③⑧	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	1			
	③⑨	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7				
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7				
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7				

## 事業所自己評価のまとめ

事業所名 児童デイサービスあさひ丸みらい

### 職員による自己評価と保護者による評価の共通点

- ・運営規定、利用者負担等の説明や、支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ている。
- ・日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解が出来ている。  
この項目について保護者の皆様からご理解をいただいていることは大変うれしいことです。  
今後も信頼を失わないよう努力してまいります。
- ・緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知、説明されている。また、発生を想定した訓練が実施されている。
- ・父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催により、保護者同士の連携が支援されているかの問いに関して、昨年度同様、新型コロナウイルスの流行により開催できなかったことが共通認識でした。

### 相違点

- ・子供の活動等のスペースが十分に確保されているか、あるいは、利用定員とスペースとの関係が適切であるか。
- ・定期的に会報やホームページ等で活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子供や保護者に対して発信されているか。
- ・非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか。

### 改善点と改善への取り組みを話し合った結果

○子どもの活動のスペースに関しては、長期休みや休日などの長時間のご利用機会に、感染症などの社会状況をみながら障害者交流センターの体育館等を活用していければと思っております。

○事業所からの情報の発信については、今年度から「みらいだより」会報を3か月に一度発行するように致しました。また、Instagramでも子供たちの工作等、発信しております。事業所評価の結果につきましては年に一度、ホームページにて発信しております。

◎昨年同様、新型コロナウイルスの流行という脅威が収まりを見せない中、日々の運営や、活動にもかなりの影響がありました。この状況がいつまで続くのかは、いまだ出口が見えず、マスクの着用や飲食時、活動中に使用するテーブルにも仕切り版を置くなど、日常生活にも変化を求められています。そんなコロナ禍で、子供たちの不安に対するストレスにも対応しつつ、いかに、より良いと思える支援を行えるかが課題であり、職員一同で考えながら進んでいきたいと考えております。